

第2回三次市学校給食食材安定調達連絡協議会 議事録（概要版）

日 時 令和3年10月28日（木） 10：00～11：35

場 所 三次市役所本館3階会議室

出席者 委員7名 事務局6名

1 開会・挨拶

村田会長が挨拶を行った。

2 議事

事務局が、次の内容に関する報告，説明を行った。

- ①先進市視察の報告
- ②三次市の学校給食における地産地消の現状について
- ③学校給食食材安定調達体制（案）について
- ④今後のスケジュールについて

4 委員からの意見（抜粋）

- 先進地で行われているコーディネーターが出荷調整を行うモデルは非常に参考になった。
- コーディネーターを設置したほうが良いと思う。
- 給食費への影響も考慮する必要がある。
- 使用頻度の高いキャベツ，玉ねぎ，にんじん，じゃがいも等の地産地消率を上げるために，JAに力を入れてもらいたい。
- 若手生産者に作付けを推進してもらいたい。
- JAでは，現在インショップや元気市の端境期に売れる野菜の作付けを推進している。
- 学校給食の地産地消率が上がるように，作付の指導ができる体制を整えていきたい。
- 夏休期間中に野菜の冷凍処理による保存や，保冷库に入れて長期保存をしてはどうか。
- 野菜を保存できる施設があれば，最盛期に大量に出荷できる。
- 4，000食の下処理の時間を踏まえて，品種等を決定した方が良

い。

○先進地の規格は比較的幅広い。調理場はどのようにカバーしているのだろうか。

⇒規格を厳しくすると地産地消率は上がらない。逆に緩めると調理場が困る。どう調整していくかが課題である。

○より多くの生産者の意見を反映するため、他の生産者グループからも委員を選出してはどうか。

⇒委員了承，人選は事務局に一任

○学校給食食材安定調達体制（案）について、各グループで話し合っ
て、意向を確認する必要がある。その際、出荷の方法について、JA
の産直ルートの利用を視野に入れているのかも併せて意向を聞いて
欲しい。

○既存の出荷グループが、今後、新調理場に出荷する意向があるのか
把握する必要がある。

○出荷していないグループへの働きかけや意向調査も進めていく必
要がある。

○個人生産者への働きかけるのであれば、周知をして欲しい。

5 まとめ

○集荷運営形態（案）を、各グループに持ち帰って検討する。

○より多くの生産者の意見を反映するため、他の生産者グループに
委員の選出を依頼する。その際、必要があれば協議会の設置要綱を
改正する。

○次回の会議は、協議内容に、法人等または個人が営む事業に関わ
る金銭の出納や経営に関わる情報、事業を営む上で必要とされるノ
ウハウなどの情報が含まれる可能性があるため非公開とする。

6 閉会